

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国歴史教育研究協議会

(代表者 高野 修一 会員数 約16,200人)

T E L 0422-51-4554

共通テストが5年目を迎え、今年度から「歴史総合」と、「世界史探究」という2つで世界史分野が出題されることとなり、共通テスト問題作成方針（以下「問題作成方針」とする）が反映された問題が出題された。本稿では、「歴史総合」と「世界史探究」の具体的な分析と要望を述べていきたい。

1の「前文」では令和7年度の共通テスト『歴史総合、世界史探究』の本試験の全般的な概略について、2の「試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価」では問題の内容・程度・設問数・配点・形式などの科目別の意見や要望について、3の「総評・まとめ」では総括的な評価、4の「今後の共通テストへの要望」では全体的な要望について述べる。

1 前 文

『歴史総合、世界史探究』（本試験）では、問題作成方針にある「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」という視点が、実際の問題作成においてしっかりと反映されていた。

以下、今年度の「歴史総合」と「世界史探究」の共通テスト本試験問題について、限られた紙面の中ではあるが、今後の検討の一助になることを期待して、本協議会の意見と評価を記す。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

今年度の共通テストは、新課程入試となって初めての実施であった。昨年度の「世界史B」の本試験は大問数は4問、小問数は33問、ページ数は32ページであったのに対し、今年度の『歴史総合、世界史探究』の本試験は大問数は1問増の5問となったが小問数は33問と前年と大きな変化はなかった。ページ数は34ページに増加した。今年度の「歴史総合」の範囲は大問数1問、小問数は8問であった。大問数と小問数及び配点は、第1問は小問数8で配点25。「世界史探究」の範囲は、第2問が小問数7で配点20点、第3問が小問数7で配点21点、第4問が小問数5で配点16点、第5問が小問数5で配点18点であった。また、第1問は「地理歴史、公民②」の第2問と共に出題であった。

出題を正解の選択肢を基に判断し、大項目別に分析すると、「近代化と私たち」からは4問、「国際秩序の変化や大衆化と私たち」からは2問、「グローバル化と私たち」からは2問出題された。

出題形式で見ると、肢文の中から正文を選ぶものが2問、誤文を選ぶものが1問、成分の組み合わせが3問、正誤の組合せが1問、語句の組合せが1問、年代の配列に関するものが1問であった。全ての大問で史料文、地図、表、文献や図版などの資料が提示されており、ほぼ全ての問題が図版や史料・グラフなどの内容を読み取って解答する形式であった。また、問題文中の設定が、歴史総

合の授業の場面における会話や対話、発表を設定しており、これは、学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を踏まえ、学習過程を意識した問題の場面設定であると考えられる。

世界史探究では、古代（5世紀以前）のみに関する出題はなく、他の時代とまたがる出題を含めても1問であった。他の時代は、中世（5世紀～14世紀）のみに関する出題が9問、近世（15世紀～17世紀）のみに関する出題が2問、近代（18世紀～19世紀）のみに関する出題が3問、現代（20世紀以降）のみに関する出題が2問、複数の時代にまたがる出題が10問であった。地域別に見ると、アジア（東アジア・内陸アジア・南アジア・東南アジア・西アジア）に関する出題が9問、アフリカに関する出題が2問、ヨーロッパ（西ヨーロッパ・東ヨーロッパ・ロシア）に関する出題が6問、南北アメリカに関する出題が2問、複数の地域をまたぐ問題が5問であった。

出題形式で見ると、肢文の中から正文を選ぶものが12問（誤文を選ぶ問題が1問）、正誤判断を伴う複数事項の組合せを選ぶものが12問、地図に関するものが1問、年代の配列に関するものが2問であった。全ての大問で史料文、地図、表、文献や図版などの資料が提示されていた。その中でも特に図版や史料・グラフ・会話文などの内容を読み取って解答する問題は21問であった。この点は、『令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針』の第4ー出題教科・科目の問題作成の方針の中にある「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察、構想する過程を重視する」を反映した出題だと言える。

本報告では、共通テスト問題作成方針の第1ー問題作成の基本的な考え方にある「大学への入学志願者が高等学校教育の成果として身に付けた、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題」となっているかを踏まえて、第4ー出題教科・科目の問題作成の方針に基づき、①用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、歴史的な見方・考え方を働かせながら、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める問題であるか、②教科書等で扱われていない資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題であるか、③仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題であるか、④時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題であるか、の4点に基づいて、具体的に検討する。

第1問 「装いの歴史」

A 政治家・官僚・軍人の装いに関する会話文を基にした近代化に関する出題。

問1 オスマン帝国の近代化改革に関する問題。アは基本的な知識を問う問題。

問2 清朝末の出来事と日本の明治初期の出来事の正しい組合せを選択する問題。図1の絵画から分かる服装・髪型等を基に時代背景を考察することが求められており、『令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針』第4ー出題教科・科目の問題作成の方針の中にある「教科書等で扱われていない資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題」という部分にあてはまる問題である。また、中国と日本それぞれに対する考察と知識が求められているところからも歴史総合を象徴する問題と言える。

問3 近代のドイツに関する知識を問う問題にも見えるが、「安政の五カ国条約」が米・蘭・露・英・仏との通商条約であることを知っているかを問う問題である。

問4 あ・いの選択については綿糸を生産する機械を選択する問題となっている。X・Yについては、帝国議会開設が1890年であることが把握できればグラフは読み取れる。一方、自給率と国内消費量・生産量の関係性を正しくとらえることができていれば、帝国議会開設の時期が分からなくても解答できる問題である。

B 女性の装いに関する大衆化とグローバル化からの出題。

問5 1920～30年代の東アジアにおけるモダンガールに関するパネル1の内容を読み取る問題。

「京城」は教科書によって記載がないため、選択肢②の文にある「植民地」にあてはまると判別するのはやや難しい。パネル1からは、独立国が日本、植民地が京城のある朝鮮半島、租界が上海を指すが、京城同様、上海もやや難しいと考えられる。

問6 ファシズム体制に関する知識と資料の内容の正誤を問う問題。基本的な問題である。

問7 挿絵の順序とイラン＝イスラーム革命の影響に関する正文の組合せを選択する問題。あ・いの選択は資料読解、う・えはイラン＝イスラーム革命に関する基本的な知識を問う問題である。

問8 第二次世界大戦後の女性の社会的地位などについて記述された3つのメモを時代順に並び替える問題。SDGsや男女雇用機会均等法は記載がない教科書もあるが、中学校の既習事項のため、基本的な知識を問う問題である。

第2問 「世界史上の都市の歴史」

A 14世紀半ばの都市カイロの状況について書かれた年代記を基にした出題。

問1 資料中の空欄補充問題。地中海交易の都市でイスラーム王朝の都が置かれたカイロ、14世紀半ばにペストが流行したという基本的な知識を問う問題。ただ、カイロを選択する上で、アズハル＝モスクが手掛かりとなるが、アズハル学院は世界史探究の教科書において記載されていない教科書も多く、ここを解答の根拠として想定しているのであれば、『令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針』第2－問題の構成・内容等の中にある「高等学校学習指導要領に準拠するとともに、高等学校学習指導要領解説及び高等学校で使用されている教科書を基礎とし」という部分とはやや矛盾する出題となっている。

問2 14世紀半ばにカイロを支配していた王朝の正文を選択する問題。基本的な問題である。ただ、本設問の4つの選択肢全てが北アフリカに存在する王朝であるため、問2から問1アが「カイロ」だと分かる。アズハル学院を記載していない教科書が多いことを踏まえると、問2の選択肢の内容から問1のアを解答した受験者もいたと考えられる。

B 都市サンクトペテルブルクに関する準備メモを基にした出題。

問3 サンクトペテルブルクに関する出来事背景に関する正文を選択する問題。時代を超えた知識が求められる問題である。

問4 近世～現代の文化史に関する問題。基本的な知識を問う問題であるが、誤文を選択する問題となっており、知識を問う問題の出題形式としては、やや難易度が高かったと考えられる。

C 19世紀初頭と20世紀初頭のバンコクの地図に関する問題。

問5 近代の東南アジアに関する知識を問う問題。基本的な知識を問う問題である。

問6 20世紀初頭のバンコクに関する文の正誤の組み合わせを選択する問題。選択肢「あ」は地図と会話文の読み取り、選択肢「い」は図1と図2の比較を正しくできているかを問う問題である。

問7 バンコク、カイロ、サンクトペテルブルクの近世以降の発展に関する知識を問う問題。「中原さんのメモ」はやや文が抽象的であるが、基本的な知識を問う問題である。

第3問 「資料の持つ文脈や背景」

A アクティウムの海戦に関する記録を基にした出題。

問1 空欄補充と資料読解の組み合わせ問題。空欄補充は近世のヨーロッパ文化に関する基本的な知識を問う問題。資料読解は、資料そのものから読み取れる解釈を選択する問題である。資料の背景について説明したリード文の内容を読み込まずに、資料そのものの内容から判断することが求められる問題である。本設問は、『令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テス

ト問題作成方針』第4一出題教科・科目の問題作成の方針の中にある「教科書等で扱われていない資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題。」という部分にあてはまる問題である。

問2 文の正誤の正しい組み合わせを選択する問題。選択肢「あ」は則天武后・「い」はマリア＝テレジアで、基本的な知識を問う問題である。

B 唐代に五經の注釈書が編纂された経緯と明代に刊行された『礼記』の注釈書『礼記註疏』をもとにした出題。

問3 『五經正義』を編纂した人物と『五經正義』の編纂理由の正文の組み合わせを選択する問題。どちらも教科書頻出の内容であり、基本的な問題である。

問4 資料内容から研究可能かどうかを判断する問題。選択肢「あ」が正しいと判断するには、リード文中の「鄭玄」から判断するか、資料中の「漢鄭 氏註」から「註」は漢の時代に加えられた注釈であることを判断することが必要である。「鄭玄」以外の判断基準としては、資料内の「漢鄭 氏註」から考察できるかが求められると、やや難しい問題であった。

C 19世紀後半にイギリス人が書いたインドにおける考古学調査の必要性を述べた資料を基にした出題である。

問5 7世紀のインドに関する正文を選択する問題。正答となる①は基本的な知識であるが、②のチャンドラグプタ、パータリプトラ、④のナーガルジュナについては掲載されていない教科書も多く、学習した教科書によって正答に差が出る可能性がある問題である。

問6 空欄補充と研究手法に関する考察について述べた文の正文の組み合わせを選択する問題。

空欄補充は近代インドの基本的な問題である。研究手法に関する正文選択問題はCのテーマが、イギリス人のカニンガムがインドの研究について考察した文章から研究することであったことを理解し、同様のコンセプトの研究を選択する問題となっている。基本的な知識とCを通して用いられている研究の手法についての理解を図る問題となっており、この点については、『令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針』第4一出題教科・科目の問題作成の方針の中にある「歴史的な見方・考え方を働かせながら、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。」という部分にあてはまる良問である。

問7 資料4の内容に関する正文選択と資料4の政治的背景に関する正文選択を組み合わせた問題。資料4の内容に関する正文選択が判断に困らない問題となっており思考力を問う問題というよりは、政治的背景に関する正文選択は基本的な知識を問う問題である。ただ、資料4が書かれた時期について、資料4中の「8カ国連合軍」から30年が経っていることが分かるため、義和団事件の30年後である1930年前後であることが推測して北伐を選択する。ただし、時期という言葉で1930年前後がどこまで許容されるか、検討の余地が必要であると考えられる。

第4問 「大陸を超えた諸地域の結びつき」

A 1850～1880年のイギリスの地域別綿花輸入量のグラフを基にした出題。

問1 会話文の空欄補充と空欄に入る変化の背景として適切な文を選択する問題。空欄補充は、グラフを正しく読み取っているかを問う問題である一方、背景に関しては産業革命期のイギリスに関する基本的な知識を問う問題となっている。

問2 グラフ読み取りに関する正誤を判定する問題。アメリカからの輸入量が減った時期に輸入総量も減っていることが読み取れるので、木村さんのメモが誤りであると判断できる。基本的な知識を問う問題である。

B ヴァイキングの活動範囲を示した図とメモとそれに基づく会話文を基にした出題。

- 問3 空欄補充問題。ノルマン人の移動に関する基本的な知識を問う問題である。
- 問4 空欄補充問題。アメリカ大陸原産の食べ物に対する基本的な知識と会話文の読解力が求められる問題である。
- 問5 ヨーロッパ人の海上進出に関する出来事を時代順に並び替える問題。ポルトガルの海洋進出、コロンブスの航海、アカブルコ貿易など基本的な知識を問う問題である。
- 第5問 「主題についての判別学習」
- 問1 空欄補充問題。アは地図中の百濟と新羅の正しい位置を選択できるか、イは解説シートの内容を読み取れているかがそれぞれ問われている。基本的な知識を問う問題である。
- 問2 パネルの内容や背景に関する正文選択問題。パネル1の内容読解と知識の正誤を組み合わせた問題。基本的な知識を問う問題である。
- 問3 空欄補充問題。エは、19世紀アメリカにおける西漸運動の本質を問う問題。オは歴史的経緯から課題に対する答えを考察する問題。知識と思考力を組み合わせた問題で、『令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの問題作成方針』第4一出題教科・科目の問題作成の方針の中の「仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題」に基づいた出題であり、良問である。
- 問4 正文選択と資料読解による正文選択を組み合わせた問題。知識は基本的な知識である。資料読解についても表内のライ麦粉と牛肉の小売価格の値上がり率を正しく比較できているか問う問題である。どちらも基本的な知識を問う問題である。
- 問5 問1～問4を踏まえて主題を選択する問題と主題に沿った事例研究として適切なテーマを選択する問題。問1～問4はいずれも政治的な側面が強調されているため、主題の選択は難しくなく、事例の選択肢の中で政治的な側面に触れているのは乙のみのため、基本的な問題である。問い合わせを横断して思考力を問う問題であるが、『令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの問題作成方針』第4一出題教科・科目の問題作成の方針の中の「時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題」に基づいた出題であり、良問である。

3 総評・まとめ

今年度から「歴史総合」が出題されるようになり、その内容は、基本的には知識を必要としつつ、地図・グラフ・資料を読み解く、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を全般的に測るものであった。共通テスト問題作成方針の第1一問題作成の基本的な考え方で示されている「大学への入学志願者が高等学校教育の成果として身に付けた、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う」という記載をふまえ、「深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する。」という記載をふまえた出題であったと言える。今後もこのような出題が継続されることを願う。

一方、2科目で解くことを考えたときに、会話文や文章資料の分量が多い点が懸念として挙げられる。ページ数で比較すると、「歴史総合」と「公共」の場合38ページ、「歴史総合」と「地理総合」の場合36ページに対して、『歴史総合、世界史探究』は34ページである。高等学校における学習活動や成果が評価されるべき共通テストにおいては、思考力・判断力・表現力等を測る設問ももちろん重要であるが、試験時間内に解き終わらない受験者が想定されることは望ましくない。この点は改善の必要がある。

4 今後の共通テストへの要望

歴史総合の教科書は世界史の教科書以上に記述内容の差が大きくなっている。そのため、学んだ

教科書によって有利・不利が生じることのないよう御配慮いただきたい。合わせて、全体の問題量について、受験者が「思考」「判断」する時間が確保できるように配慮していただき、得点分布が正規分布に近づくようにしていただきたい。「世界史探究」の出題内容では、24問中13問が近現代に関連する問題であった。「歴史総合」の出題が近現代に絞られるだけに、「世界史探究」の中で出題される時代の不均等さを是正していただきたい。

今年度の『歴史総合、世界史探究』の平均点は66.12点であった。『歴史総合、日本史探究』(平均点56.99点)、『地理総合・地理探究』(57.48点)とは約10点の差があり、科目間の平均点の差異としては特筆すべき開きとなっている。『歴史総合、世界史探究』の難易度を上げるべきということではないが、科目間での平均点の差異は公平性などの観点から是正されるべきものと要望したい。また、『歴史総合、日本史探究』と、『歴史総合、世界史探究』における出題内容における時代の差異も旧課程から改善されていない。今年度は、日本史探究における歴史総合(大問1)の出題内容は1990年代が最後だが、『歴史総合、世界史探究』における「歴史総合」(第1問)の出題内容は2015年(大問1問8「SDGs」)が最後であった次年度以降改善されることを要望したい。次年度以降も、高等学校での歴史総合、世界史探究での学習内容が反映され、歴史を学習することで興味・関心を刺激し、知的好奇心が高まる問題作成を期待している。

最後に、新課程初年度の問題作成という重責を担われ、問題作成に御尽力なされた方々に、感謝申し上げ、本報告の結びとする。